

平成27年度 学校評価結果

小:25 中:13 高:34 重:24 計:96

目標	重点課題(推進担当)	達成目標	学部	達成率							
				A 80%以上	B 50~80%	C 20~50%	D 20%未満				
1 自立と社会参加を目指した教育課程を実践・検証する	(1)「各教科等を含めた指導」において、各教科の目標及び内容の段階を明確にし実践・検証を進める。 (学習指導部授業改善研究係)	①(高等部)作業学習について「各教科で育むべき作業に必要な力」を分析し、年間計画上に明記する。	小								
			中								
			高	4	12%	26	79%	3	9%	0	0%
			重								
			全体								
	(2)年間指導計画を見直し、学部間の一貫性をもたせる。 (学習指導部授業改善研究係)	①(小・中学部)算数・数学の年間計画(主に数と計算)を見直し、評価・改善について検討する。 ②(高等部)☆本のチェックリストを参考に授業に生かす。	小	11	46%	11	46%	2	8%	0	0%
			中	6	50%	4	33%	2	17%	0	0%
			高	4	12%	19	58%	9	27%	1	3%
			重								
			全体	21	30%	34	49%	13	19%	1	1%
	(3)交流及び共同学習を計画的・組織的に推進する。 (学習指導部交流・共同学習係、渉外部地域連携係)	①渉外部地域連携係と連携し、地域交流について整理しながら推進しやすい形を整える。	小	14	58%	8	33%	2	8%	0	0%
			中	5	42%	6	50%	1	8%	0	0%
高			13	39%	16	48%	3	9%	1	3%	
重			7	29%	17	71%	0	0%	0	0%	
全体			39	42%	47	51%	6	6%	1	1%	
主なコメント	(1) ・生徒一人一人の障害・能力に応じて個別の課題を作成することができた。 ・課題研究において、作業班の生徒の評価等を行うことはできた。来年度の年間指導計画に生かせるよう、「各教科で育むべき作業に必要な力」を学部で共通理解する。										
	(2) (小・中)・教材開発について学年の教員で意見を出し合い、研究することができた。より個に応じた指導ができるよう教材研究に努める。 ・個々に算数教材を作成・評価したが、研究、検討するまでには至らなかった。 ・指導評価については12月から検討実施の予定。 (高)・児童の実態に応じて☆本の単元を構成し、授業を進めることができた。児童の興味を引くような教材作りに努めた。 ・年間指導計画を見て授業を立てるが、チェックリストを参考に指導に生かすことができなかった。										
	(3) ・交流校との関わり方を学部で話し合うことができた。 ・地域連携推進計画の周知の徹底が必要。										
考察	(1) ・研究課題には研究グループごとに取り組みを行っているが、年度の途中でもあり、まだ年間指導計画とのつながりを検証するまでにはいたっていない。										
	(2) ・(小・中)算数・数学の教材開発や指導については、担当する児童生徒の実態に応じ工夫・改善がなされている。児童生徒の変容に関する評価・授業自体への評価については、現在学年で研究を進めているところであるため、現在の程度まで研究が進んでいるかによって評価の数値が分かれていると考えられる。 ・(高等部)☆本の内容のチェックリストなので、高等部生徒の実態に必ずしも合致していないため、「授業に生かした」とする評価の数値は低くなっていると考えられる。										
	(3) ・(学習指導部)地域連携推進計画については、係から計画の内容説明があったが、まだ具体的に成果が示されていないため、計画自体を理解しているという実感がない教員が多いのではないかとと思われる。 ・(渉外部)地域連携推進計画は実践的なもので理解するのは難しいかもしれない。										
改善策	(1) ・「各教科で育むべき作業に必要な力」を高等部で分析・共通理解をする。その後、来年度の年間指導計画作成時に、「作業に必要な力」に関係する学習内容を太字にする。(指導時にあたり、教員がより一層教科と作業に必要な力のつながりを意識しやすくするため)										
	(2) ・(小・中)授業改善研究係が提示した研究の内容(様式)に沿いながら、3月の中間報告に向けて今後研究を進めていく。 ・(高等部)昨年度までの研究で小・中学部で作成したチェックリストや年計が、生徒の実態把握と個別の指導計画作成に活用できればとの考えからこの目標を立てたが、高等部生全体で見ると☆本を活用する生徒は少数であったため、全体の目標として掲げるにはふさわしくなかった。しかし、☆本の内容を学習する生徒・学習グループについては、3学期に来年度の年間指導計画と個別の指導計画を作成する際に参照することで、指導内容の系統性を確保していけるようにしていきたい。										
	(3) ・(渉外部)年度始めに外部講師(安足教育事務所ふれあい学習課等)を招いて説明してもらってはどうか。 ・今年度の取り組みについて、全体に報告をすることで、地域連携の取り組みについて周知をはかる。										
学校関係者評価委員会	(1)(2)・個別に指導を工夫されているのを感じる。施設では、作業の力が全てではないが利用者が、依存心が強いように感じる。家庭でも協力してもらう必要がある。 (3)北郷文化祭での協力など、助かっている。卒業後の生活を考えると、地域社会でのつながりを築いていくことが必要である。教員自身も、自分の地域の一員として活動して欲しい。										

目標	評価項目(重点課題)	達成目標	学部	A 80%以上		B 50%以上		C 50%未満		D 20%未満	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2 児童生徒の自立に向けたキャリア教育を推進する。	(1) キャリア教育到達度チェック表を基に、小学部から段階的な指導をする。(進路指導部、キャリア教育推進委員会)	① キャリア教育全体計画を確立し、全体に周知する。	小	3	13%	9	38%	11	46%	1	4%
			中	0	0%	0	0%	0	0%	12	100%
			高	4	12%	16	48%	7	21%	6	18%
			重	4	17%	12	50%	6	25%	2	8%
			全体	11	12%	37	40%	24	26%	21	23%
		② キャリア教育到達度チェック表を見直し、日常の指導に生かす。	小	4	17%	11	46%	9	38%	0	0%
			中	3	25%	7	58%	2	17%	0	0%
			高	4	12%	17	52%	7	21%	5	15%
			重	/	/	/	/	/	/	/	/
	③ 現段階(生活年齢)で身に付けたいキャリアについて共有し、児童生徒への指導や保護者への情報提供ができる。	小	14	58%	7	29%	3	13%	0	0%	
		中	5	42%	7	58%	0	0%	0	0%	
		高	18	55%	11	33%	3	9%	1	3%	
		重	9	38%	15	63%	0	0%	0	0%	
		全体	46	49%	40	43%	6	6%	1	1%	
	(2) 自立や社会参加のための指導内容・方法を工夫・改善し、就労を促進する。(進路指導部)	①(中学部・高等部)校内作業の充実を図る。	小	/	/	/	/	/	/	/	/
中			9	75%	3	25%	0	0%	0	0%	
高			18	55%	12	36%	3	9%	0	0%	
中高重			4	31%	9	69%	0	0%	0	0%	
全体			31	53%	24	41%	3	5%	0	0%	
②(中学部・高等部)校外作業の充実を図る。		小	/	/	/	/	/	/	/	/	
		中	8	67%	3	25%	1	8%	0	0%	
		高	20	61%	10	30%	3	9%	0	0%	
		中高重	6	46%	6	46%	1	8%	0	0%	
全体	34	59%	19	33%	5	9%	0	0%			
主なコメント	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ①・キャリア教育全体計画について、学部での検討がされていなかった。学部間や学年間での系統立てた計画が必要。 ・学部等で検討する機会があったが、自分の具体的な考えをもつことができなかった。 ②・キャリア教育到達度チェック表を参考にしながら指導することはできたが、個別指導計画に生かすことは難しかった。 ・日々の教育とチェック表を結びつけることは少なかった。チェック表を頭に入れ、日頃から見直していきたい。 ・チェック表の見直しができなかった。後期は見直しをし、個別指導計画に生かしていく。 ③・通知の配付にとどまった。→学年懇談や個別懇談の際に必ず話題に取り上げるようにする。保護者会等でHP閲覧の啓発をする。 ・学年懇談や個別懇談を通して、概ね情報を提供することができた。 ・保護者に対し、キャリア教育の系統の理解を促す努力を、懇談や日々の連絡でしていく努力が必要だと思った。 ・懇談等での進路相談に関する専門的な提供・相談には個人差が見られる。教員の進路指導力の向上が必要。 									
		<ul style="list-style-type: none"> (2) ・来年度に向けて、作業班の見直しを進めている。作業内容も具体的に決めている。 ・就業体験に参加するための目安となる統一基準(自主通学や具体的な作業態度など、どの程度の力が必要か)を明確にできると良い。 									
考察 (部長記入)	(1)	・キャリア教育推進委員会から、進路指導部への明確な指針が出されず、具体的な業務遂行がなされなかった。キャリア教育は新たなものであるという認識が高かった。									
		(2) ・一般就労、福祉就労を見極め、進めていく中で、目安や方針が不明確であったように思える。									
改善策 (部長記入)	(1)	・今年度中にキャリア教育推進委員会から全体計画を出し、業務について進路指導部の業務に明確に定める。また、既存の業務について、キャリア教育に関するものを整理し、周知を促す。									
		(2) ・今年度中に、作業班の見直し、就業体験学習や現場実習における参加基準の確認を行い、より適確な進路指導ができるよう改善を図る。									
学校関係者 評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の評価の数値が低いが、特別支援学校の生活単元学習や普段行っている学習そのものがキャリア教育である。それを見直して整理するとよい。 ・小学部から特別支援学校で学んだ子は、身の回りのことや生活習慣がよく身に付いていると感じる。保護者と協力しながら、小さな変化も見逃さずにコツコツと指導していくことが大切である。 										

目標	評価項目(重点課題)	達成目標	学部								
			A 80%以上	B 50%以上	C 50%未満	D 20%未満					
3 児童生徒の実態に応じた安全教育を推進する。	(1)児童生徒の実態に応じて危険事態を予測・回避し、必要な場合には援助を求め力を育む。 (健康指導部防災安全指導係)(児童生徒指導部)	①各学部における防災教育目標を設定するとともに、年間指導計画の中に『防災安全学習』を明記し、系統的、計画的に学習できるようにする。	小	12	50%	12	50%	0	0%	0	0%
			中	6	50%	6	50%	0	0%	0	0%
			高	17	52%	12	36%	3	9%	1	3%
			重	10	42%	14	58%	0	0%	0	0%
			全体	45	48%	44	47%	3	3%	1	1%
		②災害が発生したことをイメージしながら訓練できるように、訓練内容を工夫したり、関係機関の協力を得ながら体験的な活動を取り入れたりする。	小	15	63%	9	38%	0	0%	0	0%
			中	9	69%	4	31%	0	0%	0	0%
			高	26	76%	7	21%	1	3%	0	0%
			重	16	67%	8	33%	0	0%	0	0%
	全体	66	69%	28	29%	1	1%	0	0%		
	③交通安全指導の充実を図る。	小	19	79%	4	17%	1	4%	0	0%	
		中	11	85%	2	15%	0	0%	0	0%	
		高	18	53%	15	44%	1	3%	0	0%	
		重	11	46%	9	38%	3	13%	1	4%	
		全体	59	62%	30	32%	5	5%	1	1%	
	(2)学校安全計画や危機管理マニュアルを定期的に見直し、安全管理上の課題を共有するためのシステムを工夫・改善する。 (児童生徒指導部)(健康指導部防災安全指導係)	①児童生徒捜索体制やスクールバスの緊急時の対応等のマニュアルについて柔軟な対応と改善を図る。	小	11	46%	13	54%	0	0%	0	0%
			中	8	62%	5	38%	0	0%	0	0%
			高	16	47%	17	50%	1	3%	0	0%
重			9	38%	14	58%	1	4%	0	0%	
全体			44	46%	49	52%	2	2%	0	0%	
②各種訓練の実施から課題を明らかにし、学校安全計画、危機管理マニュアルの改善をする。		小	12	48%	13	52%	0	0%	0	0%	
		中	6	46%	6	46%	1	8%	0	0%	
		高	18	53%	14	41%	2	6%	0	0%	
		重	8	33%	16	67%	0	0%	0	0%	
全体	44	46%	49	51%	3	3%	0	0%			
主なコメント	(1)	①・防災安全学習について、計画的に実施することができなかった。 ②・引き渡し訓練を早期に実施する。 ・煙体験は貴重な体験だった。 ・机の下に潜る、頭を抱える、ハンカチで口を押さえる等具体的な練習を数回行った。 ③・交通安全教室や散歩等で実践できたが、児童が理解して行っているかという点ではまだ課題がある。 ・事故なく登下校できたが、ルールについて聞くと曖昧な生徒もいた。もう少し詳しい指導も必要だと感じた。 ・ヘルメットの着用推進はなかなか受け入れてもらえないことが多いので、今後も促しをしていく必要がある。									
		(2) ・校内研修を通して、マニュアルに基づく対応を把握することができた。 ・自分の意識の中で、「緊急時＝減多にないこと」と思ってしまう、「まだ身に付ける」に達していない。 ・各種訓練後に反省を行い、課題点を明らかにした。マニュアルの改善までには至らなかった。今年度中に各種マニュアルの改善を行う。 ・反省を行ったが、少し時間が経つと忘れてしまう様子が見られた。→学期に数回ブロックごとに確認する機会を設ける。									
考察 (部長記入)	(1)	①防災安全教育は、訓練だけでなく、日頃からの学習(災害に対する知識・理解、危険予測・主体的な行動など)が大切であると思うが、実際は学習時間が十分にとれていないように思う。 ②引き渡し訓練については、業務が多岐にわたり、係や部だけでは対応の難しい課題もある。委員会のような組織を作って対応していくことで早期実施が可能になると思う。 ③交通安全教室については年1回足利警察に來校していただき指導をお願いしている。他に春・夏などの交通安全運動の際に各クラスの児童生徒の実態に応じて指導をお願いしている。さらに実践的な力を身に付けさせたい。									
		(2) ・各種訓練後に反省はしているが、問題点や改善策等が全職員に周知されずに終わっている。 ・それぞれの部や係でマニュアルが作成されているが、全職員への周知が不十分である。									
改善策 (部長記入)	(1)	①学習指導部と連携を図りながら、防災安全学習を各学部の授業に入れていけるようにし、来年度の年計の中に入れていく。 ②来年度も体験的な活動を取り入れ、様々な状況をシミュレーションしながら訓練が行えるようにする。また、医療的ケアに関する緊急時訓練を来年度検討する。 ③交通安全運動の期間中に限らず、校外学習等でも、必要に応じて指導を行う。ヘルメットの着用については引き続き着用が望ましいことを伝えていく。									
		(2) ・危機管理マニュアルについては、それぞれの部や係で作成しているマニュアルを一つにまとめ、項目をつけ見やすくしてはどうか。今年度中に、各種マニュアルの洗い出し、まとめを行う。また、訓練後は必ず反省を行い、改善策を検討して職員会議等で全職員に周知するとともに、毎年マニュアルの見直しを行って行く。									
学校関係者 評価委員会	・水害の際には本校を避難場所として利用させていただくなど、地域全体で地震や水害への対応を考えていく必要がある。足利の危機管理課、大月地区の自治会長さんと検討できるとよい。→健康指導部、地域連携係が協力して進めていく。 ・スクールバスが出てから緊急事態が発生したときの対応を考えてほしい。→緊急事態に関して、時間帯や状況など、いくつかの想定のもとに対応策を検討していく。 ・学校に電話をしても2回線とも話し中でつながらないことがある。緊急事態を想定すると、電話回線がもうひとつあればよい。										

目標	評価項目(重点課題)	達成目標	学部	達成率							
				A 80%以上	B 50%以上	C 50%未満	D 20%未満				
4 教員一人一人が教育公務員としての自覚をもち、児童生徒の人権を尊重し、協調して教育に取り組む。	(1) 研修等を通して専門性の向上に努める。	①健康指導部(感染症予防研修、救命講習等)	小	19	76%	6	24%	0	0%	0	0%
			中	9	69%	4	31%	0	0%	0	0%
			高	28	82%	6	18%	0	0%	0	0%
			重	14	58%	10	42%	0	0%	0	0%
			全体	70	73%	26	27%	0	0%	0	0%
		②進路指導部(講演、教員の職場体験等)	小	9	38%	15	63%	0	0%	0	0%
			中	7	58%	4	33%	1	8%	0	0%
			高	23	70%	8	24%	1	3%	1	3%
			重	9	38%	14	58%	1	4%	0	0%
			全体	48	52%	41	44%	3	3%	1	1%
		③地域支援部(講演、検査法等)	小	10	40%	14	56%	1	4%	0	0%
			中	5	42%	6	50%	1	8%	0	0%
	高		17	52%	12	36%	2	6%	2	6%	
	重		10	42%	14	58%	0	0%	0	0%	
	全体		42	45%	46	49%	4	4%	2	2%	
	(2) 児童生徒に向き合う時間を大切にする。(学習指導部)	①教材データの共有化を図る。	小	16	67%	4	17%	3	13%	1	4%
			中	10	83%	2	17%	0	0%	0	0%
			高	24	73%	6	18%	2	6%	1	3%
			重	14	58%	9	38%	1	4%	0	0%
			全体	64	69%	21	23%	6	6%	2	2%
主なコメント	(1)	・研修を通して対応法を知ることができた。実際の場面では、マニュアルを見ながら対応した。今後も継続して研修を受けていく。 ・施設見学や研修を通して、将来必要な力を具体的にイメージできたが、日々の指導に生かすことが足りなかった。 ・保護者への進路情報の提示を各学級からより詳しくしていけるよう、今後も教員の理解向上を図っていけたらよい。 ・検査結果を参考に、児童理解することができたが、それを指導に生かす(継続的に)までに至らない。 ・巡回相談や支援要請などで生かすことができた。									
		(2) ・LANの教材データを活用できていない。教材を共有し、より良い指導を実践できるよう心掛けたい。 ・自分が担当する児童以外の子どもの方も作成しその教材を基に、担当者とねらいや効果等について共通理解をもつことができた。 ・共有化も含め、各授業のデータなどをLANに保存して次年度以降の参考にできると良い。									
考察 (部長記入)	(1)	・様々な研修が実施されたが、専門性の向上という点では、一人一人の感じ方が様々である。今後、身に付けた知識を日々の指導に生かしたい、さらに研修を行って行きたい、という前向きなコメントが多かった。それぞれの校務分掌部で、実際の指導場面で役立つ研修など、今後も工夫していけると良い。									
		・今年度途中にLAN内「教材集」の中に「教材データ」のフォルダをおき、学年を超えて様々な実態の児童生徒の指導に活用できる(と思われる)自作教材のデータを蓄積することにした。「教材集」内のデータと限って考えると評価の数値は低くなってしまいかもかもしれないが、以前から学年・ブロックで引き継がれている教材データも含めて見ると、データの共有はおおむねできていると考えられる。									
改善策 (部長記入)	(1)	・(健康指導部)感染症予防研修は、1学期が始まってからは参加できない教員が多いので、春休み中の学部会後の実施を考えている。救命講習は、今年度同様、実際の指導体制を考慮して研修を実施する。 ・(進路指導部)来年度、進路に関する職員研修において、基本的な進路情報や制度についての内容を盛り込む。 ・(地域支援部)来年度、WISCについての研修は夏休みだが、4月に検査結果の活用に関する研修を実施予定。夏の足特との研修は、事例を中心としたより具体的な内容の研修を実施する。									
		(2) ・学年・ブロックで以前から引き継がれている教材データは、あえて保存場所を変えずに今までどおりとする。「教材集」内は、個別の学習や他学年でも使えそうな教材データを今後も提供してもらい、インターネットで教材を探すのと同様に活用してもらえようと呼びかけていく。									
学校関係者 評価委員会	・教職員が遅くまで仕事をしているようだが、7時頃には帰るようにして、心に余裕をもって仕事をしてほしい。 ・普段から教員同士がこたばかけをし、学校の雰囲気作りをしてほしい。										